

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立本巣松陽高等学校

学校番号 14

I 自己評価

1 学校教育目標	学校教育全体を通じて、「知・徳・体」の調和のとれた、人間性豊かでたくましく生きることのできる生徒の育成に取り組む。 ア 学習活動を重視し、自己実現に向けた意欲的な態度の育成 イ 規範意識の確立と豊かな心の育成 ウ 自主・自立の精神の育成		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ○広い視野と確かな学力をもち、自ら見出した課題に、粘り強く取り組むことができる生徒 ○自分の良さや可能性を認識し、コミュニケーション能力を発揮して、多様な人々と協働できる生徒 ○心身の健康を常に心掛け、自律的な生活ができる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ○基礎的、基本的な知識、技能を習得させるとともに、地域との連携を大切にして「探究的な学び」を推進 ○すべての教育活動において共感的な人間関係づくりを進めるとともに、「対話を重視した楽しくわかる授業」を推進 ○校内外の活動における主体的な取り組みを支援することで、「自ら考え行動できる力」の育成を推進	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ○自己実現に向けて、学習に取り組む、何事にも挑戦したいという熱意のある生徒 ○自他を尊重し、人とのつながりを大切にする生徒 ○地域の一員として自覚をもち、自主的な活動に積極的に参加したいという意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇「生徒指導（教育相談）」		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・現状、問題行動や一方的ないじめ行為は少ないが、コミュニケーション不足による人間関係のトラブルに悩む生徒が多く見られる。「いじめや差別への対応」の項目では、生徒、保護者等ともに3%程度が否定的な回答であった。昨年度よりも減少したが、未然防止、早期発見に努めるとともに、生徒間の絆を深める取り組みを推進していく。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇地域社会から信頼され、地域社会で活躍できる生徒の育成 すべての教育活動を通じて、生徒相互の心の結び付きを深め、社会性を育む生徒指導を推進するとともに、地域社会から信頼され活躍できる生徒の育成を図る。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導部会を設け、個々の生徒に関する情報共有を密に行い、生徒一人ひとりの多面的・総合的な理解 ・いじめ防止等対策推進委員会、人権教育推進委員会等において、一貫性のある指導方針の運用		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 毎朝の校門でのあいさつ指導、身だしなみ指導、遅刻指導 (2) 生徒の自主性を尊重した上で、生徒相互の絆を深められる場面の設定	(1) 生徒・保護者等を対象としたアンケート結果 (2) 「いじめ」及び「心」のアンケート結果		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・規範意識の育成を念頭に、全教員がルールやマナーについて の見解を確認しつつ、身だしなみ指導や遅刻指導を行った。 ・自主性や主体性を育成するために、充実感や達成感を味わい、 自己理解を深められる学習指導や諸活動の実施を目指した。 ・豊かな人間性を育成するために、外部講師による講話等を通じ て、生徒の内面に変化が生ずるように努めた。	①生徒の規範意識（身だしなみ、交通ル ール等）は向上したか。 ②生徒は授業や学校行事に積極的に参加 できたか。 ③問題行動の発生件数は減少したか。また 生徒の人権意識は向上したか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>	
12 成果・課題	○開発的・予防的な生徒指導に努めており、問題行動の件数は低水準で推移している。 ○人権講話においては、個人の尊厳を重んじ、偏見や差別を許さず、他を思いやり、多様性を受け入れ認め合える人権意識を培うことを目標として、視覚障がいのある外部講師の方を招いて、全盲者の日常生活について話を聞いた。生徒の感想には理解が深まったという内容がとて多かった。 ▲授業への積極的な参加については、まだまだ改善の余地がある。生徒の自主性・主体性を発揮できる場を積極的に設けることを通じて、生徒一人ひとりが充実感や達成感から自己有用感を感じさせていきたい。		総合評価 A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
13 来年度に向けての改善方策案 ・自他の命を大切にすることを育む教育を推進する。 ・生徒にルールやマナーを守らせるのではなく、生徒自らが遵守する姿勢を育成していく。 ・生徒の自主性・主体性を育むことにつながる学習指導及びホームルーム活動等に関する研究を推進する。 ・生徒の自己有用感を高めるための取り組みを工夫し実践する。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月31日

【意見・要望・評価等】 ・いじめられた側だけではなく、いじめた側に対する働きかけも意識する必要性である。 ・いじめの対応について、生徒及び保護者に対する周知の方法を検討する必要がある。 ・交通安全に対する危機意識や人権意識の向上のために、個を大切にする指導が重要である。
--